

# 社 説

「第12回SUN-IIN未来ウオーク」が今月16、17の両日、鳥取県中部を舞台に開かれ、延べ2860人のウォーカーが伯耆路を歩いた。大会が全国組織の日本マーチングリーグ(JML)に加盟したことで、ことしは全国からの参加者が例年以上に多く、参加者のおよそ半数、延べ約1400人に上った。国内外の人と地元の人が交流する大会へとステージが本格的に変わった大会となり、地元で喜ぶものとして関係者と共に喜びたい。

## 未来ウオーク

# 世界のウオーキングエリアに

り歩く人の参加が増えたが、これらウォーカーはいずれも「目の肥えた」人たち。岸田理事長にはその人たちから「歴史、健康、自然と、ウォーキング大会のキーワードとなる要素をすべて持っている」といえるよう。卑下することはない、ふるさと県中部は世界に誇れるまちなのだ。

に位置付けられ、世界に発信される。100kmならば県中部の主な観光名所を網羅するコース設定も可能で、岸田理事長はこの大会を恒常的な大会にし、世界の過酷な大会を渡り歩く欧米の人たちを招き入れる考えた。

ただ、全国、世界の人を迎えるだけでは「世界一」にはなれない。大切なのは地元の人率先して歩くことだ。

食べ物などでも同じことが言えるが、今は地元の人が評価しないものは、外の人も評価しない時代。それだけに岸田理事長は「地元の人参加がもっと増えてほしい」と願う。ウォーキングは観光客には新鮮さと潤い、癒やしを与えるが、地元の人にも普段気が付かないものを見せてくれる。自分たちのまちを、集落を、もう一度歩いて見つめ直してみたい。

た。韓国、インド、中国、ロシアなどからの参加も得て盛大な大会となり、鳥取県外から必要をすべて持っている

## 世界に胸張れる大会

天候が心配されたため当日参加が例年の半分ほどにとどまったのは残念だったが、国内参加は42都道府県に広がっ

らの参加は前年比2.5倍。倉吉市の多くの宿泊施設が満室になるほどで、大会副会長を務めたNPO法人未来の岸田寛昭理事長は「私たちの思いである美しく誇れる郷土、人」を全国、世界に発信できたい」と喜ぶ。

と絶賛する声寄せられた。とりわけ東郷池を囲むるコースには「こんなに美しいコースは世界でも少ない」との声もあったという。また「人」への評価も高かった。大会はNPO法人未来を中心としたスタッフと、中高生を中心に小学生から大人まで300人を超えるボランティアに支えられたが、笑顔で接するもてなしがウォーカー

た」と喜ぶ。地元にとって特にうれしいのは、この郷土自体が高く評価されたことだ。JML加盟により、全国の加盟大会を渡